

# 福岡和白病院で大腸癌、前立腺癌と診断されるとともに、 尿細胞診検査を受けられた患者様へ

当院病理診断科では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の連絡先にお問い合わせください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはございませんのでご安心ください。またご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報保護や、この研究の独創性確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。

この研究は当院の臨床研究審査委員会及び病院長の許可を受けて実施しています。

研究課題名	尿細胞診に出現する尿路外臓器腺癌の形態学的研究
当院の研究責任者（所属）	松山篤二（病理診断科）
本研究の目的	尿細胞診は尿中に混在している尿路上皮癌（尿管癌や膀胱癌）を見出すことのできる極めて有用な手法です。膀胱と解剖学的に近接している臓器の癌（前立腺癌、大腸癌など）も膀胱に浸潤することにより尿中に稀に出現しますが、そのような尿細胞診の研究はほとんど行われておらず、教科書にもほとんど記載がないため、診断基準は確立されていません。本研究では、過去の尿細胞診標本を再検討し、他臓器に由来する腺癌と考えられる例を抽出し、尿路上皮癌などとの形態学的類似点、鑑別点を明らかにすることを目的とします。
調査データ該当期間	西暦1990年1月1日～西暦2022年6月31日
研究方法	<p>●調査の対象となる患者様 大腸癌あるいは前立腺癌と病理診断され、かつ上記期間に尿細胞診検査にて「悪性」「悪性の疑い」「鑑別困難」あるいはClass III～Vと診断された患者様</p> <p>●調査の対象となる検査材料● ・病理検査室に保管されている細胞診標本（プレパラート）・病理組織標本（プレパラート）・パラフィンブロック</p> <p>① 上記患者様の細胞診標本を再度鏡検する ② 大腸癌あるいは前立腺癌の病理標本を再度鏡検し、①の細胞診標本と対比して同一の腫瘍か、大腸あるいは前立腺に由来する癌で間違いな いかを確認する。必要に応じて、病理検査室に保管されているパラ フィンブロックから新たに標本を作製し免疫染色を行う。 ③ 大腸癌あるいは前立腺癌が尿中に出現していると確定し得たもののみ を収集し、形態学的な尿路上皮癌との類似点や鑑別点、尿中での形態 学的所見に再現性があるのかなどを検討する</p>
個人情報の取り扱い	研究対象者の秘密保護に十分配慮し、特定の個人を識別することができないよう、研究対象者に符号もしくは番号を付与し自施設外に個人を識別することができる情報の持ち出しはしません。 また本研究結果が公表される場合にも、患者様を特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 （利益相反）	本研究に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。

お問い合わせ先

福岡和白病院 病理診断科  
電話：092-608-0001（代表）  
研究責任者：松山篤二